

新宮山彦ぐるーぷ第2371回

行仙宿の床マット交換

◇実施日 6月7日(土) 晴時々曇り

◇参加者 高橋桂太、村吉光夫、梶野照雄 3名

2016年10月7日に30cm角の床マット120枚くらいを運び行仙宿小屋の床に敷き詰めた。8年以上経ち汚れも目立つようになっていた。組み合わせの形が違うものがあり、切り抜きが取れて組み合わせが面倒ということもあって、高橋君が60cm角の新しいマットを用意してくれた。



荷台一杯のマット

小屋まで運ぶ

セメントと砂利

午前8時50分、登山口に着くと高橋君は到着済みで、モノレールの荷台にはマットの箱4個が積まれていた。砂一袋とザックなどを積んで登りだす。終点に着くとほぼ同時に、高橋君が息を切らせて登ってきた。背負子に一箱を括って小屋に向かっ

た。高橋君を見送ってから、砂とセメントを担いで架橋現場に向かう。架橋現場手前で高橋君が降りてきた。砂とセメントを降ろし、終点に向かう。高橋君は背負子に一箱を括り、もう一箱を手に持って登ってきた。村吉さんは一箱を担ぎ、両手にザックを提げて小屋に向かった。セメントの残りも砂利を一袋持って架橋現場に運び、小屋に向かった。



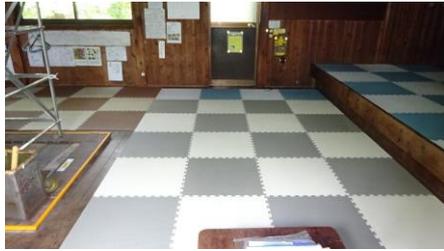
2016年10月

マットを剥がす

新しいマット

小屋に着くと、高橋、村吉のお二人は敷いてあるマットを片付けていた。動かないようにテープで固定してあるので、一枚ずつにするのが面倒なようだ。小屋内はお二人に任せ、架橋現場の支柱になるパイプを切り、二カ所にボルトを入れて、コンクリート内で動かない工夫をした。床掃除に掃除機を使うとしたら、発電機のインバーターが停止し、一〇〇ボルトが出力されなくなった。エンジンを再起動すると、警告ランプは消えて再び使えるようになるが、掃除機を動かすとまた一〇〇ボルトが止まってしまう。先日も同じようなことがあったので、インバーターの点検が必要かもしれない。ホウキで床を掃いて、新

しいマットを敷く。事前に床の寸法を測り、高橋君に伝えていたので、ほぼ全面にくまなく敷くことが出来た。玄関わきの水置き場だけは、水がこぼれることを考慮して、六枚分を敷かなかった。



管理棟にも

敷き終わったマット

水置き場は除いた

床面にマットを敷き終わって、一〇数枚が残った。毛布棚の下に敷くことも考えたが、あまり利用がないと思い、管理棟に敷いてもらった。古いマットは、空き箱三個に詰めて持ち降ろした。村吉さんが処分してくださるそうだ。水とスコップ、支柱のパイプを持って架橋現場に降りる。砂一袋半、砂利一袋とセメントを練って型枠に流し込む。少し足りないかと思ったが、ぴったり量のセメント打設は終了。練箱とスコップを小屋で洗って作業を終えた。古いマットは高橋君がすべて終点まで運んでくれた。夕方からマンションの理事会があるので、と先に下山した。小屋に戻り戸締りを確認して下山。植平さんが大日岳の上部クサリを前鬼に運ぶと聞いていたので、前鬼に向かう予定だが、約束の時間まで一時間ほどある。前鬼に行くと帰り

が遅くなるので、村吉さんは先に帰宅された。チェーンソーを持ってきていたので、登山口の丸太を半割にした。三本目を半分ほど切ったところで燃料切れになり、作業を終えて前鬼に向かった。予定を変更して行仙宿に来てくださった村吉さんのお陰で、想定していたより1時間も早く下山できたことにお礼申し上げます。



本日の参加者



セメントを練る



コンクリート打設

約一時間で小仲坊に着く。植平さんは田中岳良さんと一緒に前鬼に着いていた。お堂にあるクサリを見せていただいた。長さは11.6mで重さは20kgを越えている。3カ所のロウ付けが外れ、一か所は大きく広がっていた。クサリの1スパンの長さが2種類ほどあり、明治時代に修理した部分と、設置当時の部分が混在しているようだ。前の切れた下部も重かったが、この上部はより重い。よくぞ一人で運んだものだ、と感心した。植平さん等は、弥山から歩いてくる関東の行者さんを待っているらしい。お腹がすいてきたので、今に入ってカップ麺を食べ

た。午後6時過ぎ、行者さんの到着を見届けて下山した。

(記；梶野)



大目岳の上部クサリ



広がっている繋ぎ目



明治二年の銘

行動タイム

08:50 補給路登山口↓09:30 コジマハウス↓10:10 行仙宿13:
21↓14:10 補給路登山口15:05↓16:15 前鬼18:10↓前鬼口
18:50